

ご質問をありがとうございます。

「包括的性教育が、教育現場に取り入れるためには何をやっていけばいいのでしょうか」というご質問ですね。素晴らしい視点だと思います。

最初に包括的性教育について説明をしましょう。

包括的性教育（Comprehensive Sexuality Education: CSE）は UNESCO（ユネスコ）などが提唱する国際的な枠組みでは、身体、感情、社会、人間関係、人権など、人間としての生を多角的に捉える教育と定義されています。単に「性行為」や「避妊」についての生物学的な知識を教えるだけのものではありません。

包括的性教育の最も重要な特徴は、性的な健康を「人権の一部」として捉えることです。自分の身体は自分のものであるという認識（身体の自己決定権）を育み「嫌なことは嫌だ」と言える権利、そして相手の意思（同意）を尊重する権利をあらゆる年代に伝える教育です。

また他者とのように良好な関係を築くかに重点を置きます。同意（Consent）が重要であること、日常的な境界線（パーソナルスペースや身体への接触など）を含め、相手の意思を確認し合うスキルを学びます。そして感情を言葉にし、相手を尊重しながら対話するコミュニケーションの大切さや具体的なスキルを学びます。

さらに、社会の中でジェンダーによる不平等や役割分担、性の多様性（LGBTQ+など）について目を向け、誰もが公平に生きられる社会を目指す視点や、排除や差別がない環境の重要性を学びます。そして、性暴力やいじめ、搾取から自分を守り、被害に遭ったときにどう対処するか、暴力の防止と「安全（セーフティ）」のスキルも学びます。

以上について、包括的性教育では、成長の段階に合わせて、適切な言葉で、科学的根拠に基づいた情報を伝えます。幼児期には「身体の名称」や「プライベートゾーン」の話から始め、思春期には「避妊・感染症」だけでなく「性的同意」「人間関係の責任」へと内容を段階的に深めていきます。

このように包括的性教育は、人間として社会で生きていくために必要なことを包括的に年齢に応じて学ぶものです。子どもが自分自身を大切にでき、他者と誠実で安全な関係を築ける大人になるための教育だとも言え、人権教育や人間関係のあり方を学ぶ、非常に重要な取り組みです。

では「包括的性教育が、教育現場に取り入れるためには何をやっていけばいいのでしょうか」…というご質問への回答ですが、私個人の考えとしてお答えさせていただくことをご了承ください。

まずは、「包括的性教育」とは何か、という知識を教育現場はもちろんのこと、日本の社会全体…保護者や地域の人々に広げることが重要だと思います。

日本の「性教育」は、これまで生物学的知識（身体の仕組み、妊娠、避妊、性感染症）の伝達に偏ってきました。そのため「性教育」と聞くと、寝た子を起こすのではないかと、刺激になるのではないかと…といった考えがありました。また、日本では 1980 年代から 90 年

代にかけて、特定の指導内容が「発達段階に合っていない」「過激である」といった批判を国会などで巻き起こった経緯があります。そのこともあり、教育現場で「性教育」を行うことへの忌避感やタブー視するも感覚もまだまだ高いといえます。

しかし前述したとおり「包括的性教育」は、これまで日本で捉えられていた「性教育」とは異なり、性行為や避妊、病気などに偏った教育ではありません。人間として社会で生きていくために必要なことを包括的に年齢に応じて学ぶものです。

「包括的性教育」子どもが自分自身を大切にでき、他者と誠実で安全な関係を築ける大人になるための教育であることが理解されていくと、いろいろな取り組みが変わってくるのではないのでしょうか。

ただ、そのためには学校教育だけにそれを任せることなく、社会全体で取り組むことが重要だと思います。

日本や岩手でも、以下の取り組みが少しずつ広がっています。

○外部専門家との連携： 学校単独で抱えず、助産師や保健師、弁護士などの専門家を外部講師として招き、多職種が連携して、客観的で専門的な情報を届ける体制づくりが始まっています。

○人権教育・ジェンダー平等教育との融合： 「性教育」という名称だけでなく、「自分と他者を大切にする」「暴力や差別を許さない」という広い文脈（人権教育など）の中で包括的性教育の要素を浸透させるアプローチも行われています。花巻市での今回のセミナーのように、性は生きることそのものであること、性は人間の権利であることを伝える機会を増やしていくことも、保護者や地域の方々、そして社会全体が理解を得やすくなるでしょう。

○理解した方々からの発信、対話の継続： 質問者様のように関心を持つ方々が、地域社会で「なぜこれが必要なのか」を言語化し、対話を続けることで、徐々に地域や保護者の理解を広げていくことも可能だと思います。特に家庭の中でも「性」がタブー視される傾向があります。でも包括的性教育の理解が深まれば、幼少期から、あなたは大切な存在だよ、と伝えていきながら、自分の体は自分の体、自分を大切にしていくことの大切さ（プライベートゾーンを人に見せない・触らせない、自分で自分の清潔や健康を守る方法、嫌なことは嫌と言っていい・・・など）、そしていろいろな人がいるが、みんなそれぞれ尊重されるべきな存在であること・・・などなど、家庭の中で伝えていくことは日常生活でできることだという認識が広まればいいと思うのです。

包括的性教育を進めることは、子どもたちが自分を守り、他者と尊重し合える関係を築くための「生きる力」を育むことです。学校現場だけではなく、家庭や地域社会全体…つまり私たち一人一人が、その意義を理解していくことが重要だと思います。

以上となります。

岩手県立大学 福島裕子